

平成31年度



白川小だより

第3号

令和元年5月28日(火)

「思いやり」で事故防止

～交通安全教室を行いました～

校長 奥村 哲也

5月10日に、白川駐在所、交通安全協会白川分会の方々にご協力いただき、交通安全教室を行いました。

この春に警察庁交通局がまとめた「歩行中児童の交通事故の特徴について」によると、①状態別では、歩行中の事故が最も多く6割を占める、②小学校1年生の事故は6年生の3.6倍、③学年が高くなると自転車乗用中の事故の割合が高くなる、④小学校1年生の事故の第1のピークは5月中・下旬、⑤歩行中の事故による死者・重傷者の約4割は飛び出しが原因とあります。

交通安全教室では、「横断歩道の安全な渡り方」「自転車に乗るときの注意」について学び、「自分の命は自分で守る」という意識を高めました。



しかし、どれだけ気を付けていても交通事故に巻き込まれてしまうことがあります。滋賀県大津市で起きた、信号待ちをしていた保育園児の列に乗用車が突っ込むという痛ましい事故は、記憶に新しいと思います。先日の朝には、登校するお子さんを中学校前のバス停まで送ってくださったご家族の方が、交差点で右折してきた車にもう少しの所で轢かれそうになったという連絡がありました。

5月中頃、西和泉方面へ下校する分団についていく機会がありました。一緒に歩きながら1年生のSさんが、「あのね、Kさんはね、ちょっと遠回りだけど、ぼくの家までいつも送ってくれるんだよ。それでね、家に着くとね、ぼくのおばあちゃんが『ありがとう』ってお礼を言うんだよ。」と話してくれました。1年生のSさんが毎日安全に下校できるのは、3年生のKさんの見守りの賜でしょうか。

また、SさんやKさんが通る学校の西門前は、通過していく車、保育園に向かう車・戻る車があり、見通しも良くありません。事故がないのは、運転する皆さんが、徐行して下さったり、児童の横断を優先して下さったりしているおかげだと感謝しております。

交通安全で大切なのは、「自分の命は自分で守る」という子ども達一人一人の意識と、子ども達を見守ってくださる地域・保護者の皆様の思いやりだと思います。これからも、児童の姿をみかけましたら、思いやり運転をお願いします。